

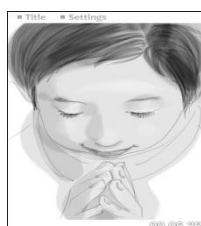
感じること、そしてできること

～東北大震災を考える～

23年は、東日本大震災をうけ、初めて「震災」というテーマを設定して参加者を募りました。6月7日NPO関係者が集まり企画会議。下記のスケジュールで8か月の活動を実施しました。

日付	題目	場所	内容
7月9日	第1回みなちやれ	青少年センター	本年度の趣旨・顔合わせ・今後の検討
8月10日	第2回みなちやれ	青少年センター	講師3名を招き研修。中学生11名、高校生6名、大学生3名が集まりスタート 2チーム 「bluesky」・「虹」が出来る
8月23日	Bluesky	コンテックス	今治タオルメーカーと商品打ち合わせ
8月27日	Bluesky	青少年センター	商品企画打ち合わせ
8月30日	Bluesky	道後中学校	中学校校長会と打ち合わせ
9月11日	虹	美術館南館	ホームページ・ブログ研修
9月12日	Bluesky	久米公民館	商品企画打ち合わせ
9月23日	虹	愛媛大学	ホームページ・ブログ打ち合わせ
9月28日	Bluesky	久米公民館	商品企画打ち合わせ
10月29日	虹	青少年センター	ホームページ・ブログ打ち合わせ
10月31日	Bluesky	久米公民館	タオルパッケージキット制作・袋詰め
11月3日	Bluesky	久米中	タオル販売
11月6日	Bluesky	久米小	タオル販売
11月中	道後・旭・北条北・雄新・東・久米中学校の生徒会がそれぞれの学校・地域で販売		
11月7日	虹	久米公民館	ブログ用 歌収録
3月17日	第3回みなちやれ	青少年センター	活動報告・反省会

みんなのチャレンジ・みんなでチャレンジ
松山



実際に被災地でボランティアをされた社会福祉協議会の方々や、県立東高等学校の養護教諭、松山に来られた被災者の方々と交流をされている石手寺住職の話などを傾聴し、私たちにながでできるか考えました。参加者は大学生、高校生、中学生。ブログを立ち上げて言葉で元気になってもらおうと考えたチーム『虹』と被災地にタオルを贈って「おなじ空の下、悲しみも喜びもいっしょに」と『blue-sky』チームの2つのグループができました。

PART1 虹

今後は物質的支援だけではなく精神的支援も必要になるだろうとの考えから、東日本と愛媛を結ぶ虹をかけようと、ブログの立ち上げにチャレンジすることにしました。支援の歌を録音し公開しているのでアクセスしてください。 <http://ameblo.jp/tsunagaru-m>

この活動は今年で終わりではなく、メンバー各自が今後とも書き込みを続けて、継続していく予定です。

目的

- ◎ 遠く離れた愛媛でも「震災のこと、忘れない」という想いを伝える。
- ◎ オガも頑張ってるんだな・・・とメンバー同士も近状交換する。

理想

- ◎ ブログが毎週更新されている
- ◎ 月に10人の方からコメントをいただける

ブログ更新の分担（来年の3月11日（月）までが目標です！）

※是非、スケジュール帳や携帯などに1年間分のチェックを！！

内容

- ・愛媛県や身の回りの震災に関する活動やコメント
（ニュースの内容や募金活動や寄せ書きなどの紹介）
- ・日々考えていることや感じていること
- ・自分自身の近状
- ・笑顔になれるような写真・絵 などなどその他これ書いてみようかな！と言うことはどんどん ok！

一応、反省会で継続の意志を確認した私とえびちゃん、はかせの3人で月に2回は最低でも継続していきたいと考えています！なのでそれに加えて、やってみようかな！と思う人は、是非一緒に参加しましょう！そしてその時は一年後にまたこのメンバーで会えたら良いね。カラオケ行こうか！みんなそれぞれの自分の道に立ち、小さくても目標を一つ一つ達成できることを願っています。



参加者の感想



浅井香奈江・・・私たち「虹」のグループは、3月11日に起こった東日本大震災をうけて、ボランティアをはじめました。活動内容としては、最初に何をするかを話し合い、実際にボランティアをしている人の話を聞き、被災者に今一番必要なことは“心のケア”ではないかと思い、少しでも心が和む場所を提供できるようブログを設立しました。ブログでは活動の内容を掲載したりしました。1件だけですが、東北の方からのコメントもいただき役に立っていると実感しました。

ほかにもブログの知名度をあげたり、和んでもらうために歌を歌いました。まだ、投稿の仕方がわからず、やったままの状態になっていますが、近々投稿できるようにしたいと思っています。

活動の反省点としては、まず、全体的に計画性がなかったと思います。ブログについては、書く頻度が少なく、歌は未だ投稿できていないので、中途半端になっていると思います。また、中学生が受験やブログの規制により参加しづかったことも考慮に欠けていたと思われます。解決策としては、ブログの更新については担当を決めて毎週土曜日更新とし、中学生には更新したブログをみて、できたらコメントを書き込んでもらうことにしました。また、できれば月1で絵や動画を投稿し、より愛媛と東北がつながれる場所をつくっていったらいいなと思っています。

活動の良かった点は、計画的ではなかったですが、和らぎ、つながれる場所を提供するという発想自体は良かったと思います。受験や就職活動で忙しいにもかかわらず、参加した時は積極的に活動する関係も良かったです。東北の人のコメントも「東北について考えていてありがたい。今後も東北のことを忘れずにいてほしい」。という文で結果的に東北の人とつながることができて良かったです。また、ブログは離れていてもできるので、今後も継続できてよいと思いました。

この活動を通して、様々なことを感じ、考えましたが、やはりまだ復興が完全にできたというわけではないですから、根本的な復興を願うという気持ちは変わっていません。私たちが活動したことはとても小さなことですが、それでも見てくださる人もいて、よりこの活動も継続し、心と心でつながっていけるよう努力していきたいと思いました。



宮本江美…私は、今年度の活動を通して、まず、何かをやることは簡単だけれどもそれを続けることは難しいと感じました。私たちの班ではブログを更新したり、石手寺の住職さんから被災者支援のお話を聞いたりしましたが、どれも断片的で終わってしまったように思います。1つ1つの活動をつなげ、更にこれらの活動を1回で終わらず続けていくことが東日本大震災を風化させないためにも、必要なことだと思います。そのためにも、今年度の活動の反省点を踏まえ、定期的にブログを更新するなどの活動をこれからも続けていきたいと思っています。

恥ずかしながら、私自身も未だに東日本大震災の悲惨さを痛感できないように思います。昨年、3月11日に東日本大震災が起こり、津波で多くの人々が流される光景をテレビで見っていたし、昨年8月には、5日間、宮城県の山元町に中学生の学習支援に行き、直接この目で震災の被害を見てきました。それでも、心のどこかでは「自分には関係ない」こととして客観的な目でとらえているところもある自分もいます。テレビで見たり、被害者の声を聴いたりして、悲しく思い、時には涙を流すこともありましたが、他人事のように冷たい目を向けている自分もいると思います。愛媛は東北から離れており、震災の被害は受けなかったし、しかも私は、今まで大切な人を失うこともほとんどなかったので、多くの大切な人々を失う悲しさを持つ被災者の気持ちを十分に理解できないと思います。だって、私は被災していないから。私の周りは平和で幸せに満ち溢れていると最近つくづく感じます。自分のやりたいことができる私は幸せ者だと思います。そんな私が震災から1年経ち、少しずつ復興の兆しが見えてきた中で、自分が今後やっていきたいことがいくつか考えていくことができました。ひとつは「自分の身は自分で守る」。これは、宮城県の中学校に行ったときに、その学校の校長先生が愛媛の子どもたちに伝えたいこととしておっしゃっていました。このことを友人、子どもたちに伝えていきたいと思っています。

私一人ではできないこと、分からないことも人とのつながりを通してできる、分かることはたくさんあると思います。これから少しずつできること、分かることを増やしていき、生きていく中で人を失う悲しみも理解していきたいと思っています。



今年度の活動と4年間の活動を終えて…宮田 愛里

私は、今まで1回生から4回生まで活動に参加させていただきました。今年度の活動は、震災を受けて私達にできることを考えるという今までにない難しい活動となりました。私自身、活動前は、震災から数ヶ月しか立っていなかったと言うこともあり、何かしたい！このような場があって役立つならうれしい！と言う熱い気持ちを抱いていました。しかし、実際は、何をしたらいいのだろう・・・

そして、「ブログを立ち上げる」という活動に行き着いた後も、何を書けばよいのだろう・・・と立ち尽くすばかりでした。

結局、活動報告会では、ほとんどアクションを起こすことのできなかった活動に対する反省点ばかりで、班員にも申し訳なく、被災地のことを思う気持ちがすごく中途半端だったような気がして、申し訳なく思いました。

一方で、今年度の班全体の様子としては、みな優秀な中・高生と、過去に参加経験のあるベテラン勢の集まりだったように思います。そして、最初の集まりから最後まで和やかだったなぁと言う印象です。オガとまさき、山Pと言う明るくて素直な中3生たちを中心に、先輩にも物怖じせずに意見を言えるちーこ、初めての参加で班には友人もいない中、さっそくいじられ気味の高校生のヒノタク、あいかわらずの天然を持ちながらも、状況を掴みするどい質問をするようになったゆきむら、それを静かに見守るぶっしー、そして、何と云っても、高校2年生で初参加ながらも、チームをたくさん引っ張ってくれたはかせの存在は大きかったように思います。

さらに、被災地の現場経験もあるえびちゃんも加わり、途中、何人か新メンバーも参加してくれながら進んだ活動でした。私達の中心の活動としては、ブログを立ち上げコミュニケーションを取れる場を作る中で、そこに歌をアップして、みなさんに聞いていただいたりブログを見るきっかけをつくろうとしたことです。リーダーオガが歌に自信があるということで、そこから、段々皆で歌おうということになりました。私も驚くばかりだったのですが、生徒会役員だった中学生たちは、自ら、生徒会室で練習したり、歌いたい曲をピックアップしてCDROMに焼いてきたりと、とても行動力がありました。また、写真をアップしたいから、何かアップしたい写真があればメールをしてほしいという問いかけにも、みないち早くメールをくれ、反応を返してくれました。本番の歌の録画の際には、「これが中学生たち・・・？」と思うような、熱唱。少人数で気心の知れたメンバーの中でということもあってか、こんなに必死に歌うんだなあ・・・と感心しました。また、やはり、被災地の方やその他大勢の方が聞くかもしれない、その方たちに届いてほしいという思いが、あの歌声につながったのかなあと思います。歌を歌う、と言うのは、自分自身を出すということで、意外と難しいものらしく気心が知れない中ではなかなか歌えないということをどこかで聞いたことがあったのですが、終始「わきあいあい」だった私達のグループにはぴったりな活動だったのかなあと後から思いました。

報告会を終え、ブログの具体的な更新日時や担当を決めました。もしメンバーに意志があれば、まずは今後1年間をめでに継続してやっていこうと思います。報告会にいた、私、えびちゃん、はかせのメンバーでは、継続の意志を確認しました。具体的な目標を立て、それをみんなで実行する、ということは、こんなにも心強く、勇気をもって一歩踏み出せるものなんだなあ・・・と言うことを4年目にして改めて感じたように思います。うまくいかなければ、次どうすればいいのか、どうしたいのかを考えることの大切さや、もう1回頑張れる場と一緒にできる仲間がいることのうれしさを感じました。ブログの中でも一つの班の活動のタオルを受け取った被災地の方からいただいた「東北のことを忘れないでほしい」というメッセージを胸に、愛媛で行われている震災に対する活動やそれに対する自分たちの思いを、ブログで継続してつづることが「忘れない」と言う気持ちを目に見える形で伝える私達のできるのかなと思います。

この活動に1回生のときに参加したときは、釣りにキャンプにバーベキューにスキューバダイビングに、やりたいこと満載の盛大なイベントに参加している！と言う感想でした。2回生では、大学生として、どう中学生たちの意見を引き出したり、よりよい活動になるようにアドバイスできるか少し考え始め出しました。3回生では、大学生スタッフに強力なともさんとゆっきーを迎え、こんな関わりやこんな接し方があるんだと大いに勉強させてもらった活動でした。そして、今回の活動では、中・高生たちの思いに寄り添いながら、私自身一緒に悩み考えながら、それでも楽しく活動できたらいいなと思って活動していました。

振り返ってみると、まだまだ至らないことや難しいことばかりだったのですが、今は、4年間活動させてもらえたと言う大きな達成感と、いろんな人やいろんな楽しみ、難しさに出会って感じた一つ一つの小さな感動でいっぱいです。そして、活動を支えて下さった大人の方々には、本当に感謝しています。来年度から社会人になる身として、自分の仕事や家庭もある中で、その中の休日に活動に来てくださったり、長旅の車の運転をさせていただいたり、その他にも様々な手配や準備をいただいたことに、本当に尊敬と感謝の思いでいっぱいです。大人の方々とお話をしたりするのは楽しく、また見守ってくださる方々がいるからこそ、安心して自由にやりたいことを行えたように思います。

私達大学生は、大人の方々や活動を通して知り合った方々とのたくさんの方々との貴重な出会いを経験させていただきながらも、子どもたちの思いを引き出したりよりよい活動になるようにとも考えたりと、教育学部の学生にとって本当に勉強になる良い経験をさせていただきました。そして、私達自身も、活動の参加者として、様々な経験を通して、自ら考え行動し、反省し、また考え行動していくというプロセスや、仲間の大切さなど、人生を前向きによりよく生きるために必要な知恵や業や姿勢を学んだように思います。ここで学んだり感じたりしたことを、自分のこれからの生活に活かしたいと思うとともに、この活動に携わった子どもたちやこれから活動に携わる人達全員にとっても有意義な体験になったらいいなと思います。4年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

